

令和3年度第2回仙台市認知症対策推進会議 議事録

開催日時：令和4年2月1日（火）18時00分～19時10分

開催場所：オンライン会議

【委員（五十音順・敬称略）】

（出席者）

赤間 恵美子（公益社団法人宮城県看護協会）
阿部 哲也（認知症介護研究・研修仙台センター）
伊藤 あおい（特定非営利活動法人宮城県認知症グループホーム協議会）
岩渕 徳光（社会福祉法人仙台市社会福祉協議会）
小牧 健一朗（一般社団法人仙台歯科医師会）
佐々木 薫（認知症介護指導者ネットワーク仙台）
鈴木 佐和子（宮城県老人保健施設連絡協議会）
清治 邦章（一般社団法人仙台市医師会）
高橋 利行（特定非営利活動法人宮城県ケアマネジャー協会）
高橋 将喜（一般社団法人仙台市薬剤師会）
丹野 智文（おれんじドア）
福井 大輔（みやぎ小規模多機能型居宅介護連絡会）
南 研二（宮城県精神保健福祉士協会）
宮崎 朋子（仙台市地域包括支援センター連絡協議会）
山崎 英樹（仙台市認知症疾患医療センター いずみの杜診療所）
若生 栄子（公益社団法人認知症の人と家族の会宮城県支部）

（欠席者）

大嶽 友和（仙台弁護士会）
戸次 有一（仙台市老人福祉施設協議会）
原 敬造（一般社団法人仙台市医師会）

【事務局】

仙台市健康福祉局
各区保健福祉センター障害高齢課

【オブザーバー（順不同・敬称略）】

仙台市認知症疾患医療センター
仙台西多賀病院 医師 大泉 英樹
東北医科薬科大学病院 医師 古川 勝敏
東北福祉大学せんだんホスピタル 医師 高野 毅久

仙台市健康福祉事業団介護研修室

【会議概要】

- 1 開会
- 2 挨拶（健康福祉局保険高齢部長）

議事に入る前に、山崎議長より次の確認があり、委員より異議なく了承された。

○会議の公開・非公開について、公開とすること。

○議事録署名人を、小牧委員とすること。

- 3 議事

令和3年度仙台市認知症対策の主な取り組み状況と今後について
（事務局より資料①、②、③について説明がある）

（山崎議長）

認知症介護基礎研修のeラーニングについて阿部委員より報告を頂きたい。

（阿部委員）

先ほどの仙台市からの報告に追加して補足する。

認知症介護基礎研修事業は2016年より、6時間のカリキュラムで認知症介護初任者を対象に行われている。

その6時間のうち3時間はeラーニングで行い、残り半分を集合で行うという形式で実施していた。

認知症施策推進大綱の中で、本人主体の介護を実践できる人材の育成や介護従事者の認知症対応力向上の促進となる研修を推進するということになっている。

そしてeラーニングも含め、より受講者が受講しやすい仕組みを作り、研修を受けられる機会を迅速にふやしていくという国の方向性がある。

その中で今年度から介護初任者の無資格の方は全員基礎研修を受けるよう義務づけがなされた。

昨年度の国の事業で私ども認知症介護研究・研修仙台センターが受託して、基礎研修のeラーニング化を実施した。

実施より1年も経過していないが、全国の自治体67のうち43の自治体がeラーニングで、基礎研修を実施している状況になっている。

1月時点で、eラーニングで基礎研修を受講している方は、およそ1万3000人となっている。

全国の介護事業所にいる無資格者は、実数は把握できていないが、推測で10万人を超えると言われている。1万3000人ではまだまだ未充足の状況なので早急に普及

する必要がある。

基礎研修のeラーニングは、国の標準カリキュラムがあるのでそれに従って構成されているが、基本的には大綱の考え方を反映しながら内容を構成している。

例えば、大綱の概要をできるだけ初任者でもわかりやすいよう、本人ワーキングやスローショッピングの取り組みや認知症カフェ等の実際の写真や動画を多く使用し、施策をできるだけ目で見てわかるようにしている。

これはできるだけ本人の普段の生活の様子や、本人がどう思っているか、何が楽しいか、そういう本人インタビューをできるだけ取り入れ、本人たちの考えなどを見た上で、パーソンセンタードケアの話や意思決定支援の話をするという構成にし、できるだけ本人と家族主体の考え方を盛り込むようにしている。

また、実際の介護事例の動画を見ながら自分で意見を入力するなど、双方向の学習機能を用意し、飽きることが無いような作り方にしている。

更に、介護現場で働いている方々は業務中に纏まった時間が取れず、休みの日や休憩時間に受講している現状があるので、1回の学習時間を5分から10分で学べるように細分化している。

現状の課題として、基礎研修をeラーニングのみで実施してしまうと、受講環境や通信環境がない方が受講できなくなってしまうという事がある。

そういった課題への対応というのをこれからしていかなければならない。仙台市とも相談しながら、他の自治体の事例を共有化しながら全国的に対策をしたいと考えている。

また、首都圏を中心に外国人の介護人材が増えている。

この方々も基礎研修を受けなければならないので、eラーニングシステムを外国人に対応できるよう改修した。

本年度の事業として実施したので、早ければ4月から使えるように公開していきたい。

改修内容としては、簡単でわかりやすい日本語版を作成した。それに加え、ベトナム、フィリピン、ミャンマー、インドネシア、中国、それぞれの言語に翻訳した補助テキストも作成している。

更に、来年度に向けて障害のある方向け、特に視覚障害、聴覚障害、知的障害の方への対応をこれから実施したいと考えている。

あとは、できるだけeラーニングだけで終わらず、介護現場で使えるような工夫や取り組みをセンターとして考えていきたい。

詳細は、インターネットでDCネットと検索すると、この研究成果を見ることができるのでそちらを見ていただきたい。

(山崎議長)

認知症介護実践者研修の新カリキュラム対応について佐々木副会長より報告を頂きたい。

(佐々木副会長)

今般要綱の改訂があり、実践者研修及びリーダー研修ともに、受講生が参加しやすいよう時間を短縮して実施することとなった。

研修に使用するテキストは現在作成中で、令和4年度から使用予定としている。作成にあたって仙台市の認知症介護指導者では、シラバスが認知症介護研究・研修センターより出ているので、それに基づき、今まで使用していたテキストを再編して作成している。

この内容に関しては、阿部委員の方が詳しいと思うので補足をお願いしたい。

(阿部委員)

今回の改訂に関しては、実践者研修もリーダー研修も全国的に参加希望者が減っているという現状があります。それは研修内容の問題ではなく、介護人材不足等の影響が大きいところです。

業務が忙しく、外部の研修に出ることが出来ない方が増えてきたので、実践者研修及びリーダー研修を短期間にして、少しでも受講しやすくするというのが大きな理由となる。

研修期間は短くなっているが、質は下がらないように検討を重ね実施している。

(山崎議長)

これまでの事務局、阿部委員、佐々木副会長からの報告、説明に対し質問や意見はあるか。

(高橋 将喜委員)

令和4年度の初期集中支援チーム体制の説明で、6チームに増やすということであった。その際に新しくドクターが4人入ると報告されているが、薬剤師が入る予定はあるか。

(事務局)

薬剤師会にも各区で活躍いただく方の推薦をお願いしたいと考えていた。これから年度末にかけて、来年度の相談をさせていただきたい。

(高橋将喜委員)

承知した。是非協力させてもらおう。

(山崎議長)

他にあるか。

4 参加団体活動報告

(山崎議長)

参加団体の活動について若生委員より報告を頂きたい。

(若生委員)

令和3年度の家族の会の活動の主なことをお知らせする。

まずは、認知症の人と家族の会の大きなイベントである、2021 世界アルツハイマ

ーデー記念講演会を仙台市の介護予防月間事業と共催で11月13日に開催した。

昨年度はコロナ禍ということで参加者を入れず実施したが、今年度は人数制限を設けたが、参加者を入れて講演会を実施することができた。

今年度は、東日本大震災発生から10年ということとコロナ禍ということもあり、命の大切さを改めて考えていただこうということで、「どう生きる・命の大切さを抱きしめて 東日本大震災から10年～コロナ禍を経験して」という題名で講演会を開催した。

それからもう一つ、令和3年度障害者の生涯学習支援活動に係る文部科学大臣表彰をいただいた。

これは、家族の会の事業である、本人・若年認知症の集い「翼」が受賞した。

今まで認知症に関し、厚生労働省への相談等で、いろいろなことを学ばせてもらっていたが、文部科学大臣、文部科学省から表彰されたということで、これは、認知症の方が病気の人ということではなく、病気による障害を持った人ということを認めてもらえたということで大変うれしく思っている。

この活動は、開始してから15年になるが、地道に活動してきたことを改めて認めてもらえたということで、認知症になっても地域で暮らしていけるという勇気ももらえたと思っている。

(山崎議長)

小牧委員から続けてご報告を頂きたい。

(小牧委員)

仙台歯科医師会では、歯科医師認知症対応力向上研修会を毎年行っている。

令和3年度も3回実施予定しており、第1回は10月14日に実施した。

テーマは認知症の基礎知識ということで、脳と心の石原クリニック院長の石原哲郎先生に講演いただいた。

研修会では認知症の種類や特性、診断基準などについて話しをいただいた。

また、パーソンセンタードケアなどの視点に基づいた具体例を紹介いただき、日々の診療の中で、どのような視点で認知症の方に関わっていくか、ということを学んだ。

第2回目は令和3年11月11日に、かかりつけ歯科医の役割というテーマで、東北大学大学院歯学研究科の服部佳功先生に講演をいただいた。

その講演では、歯科に特化して認知症患者の治療に対するガイドライン等について話していただいた。また、認知症と口腔内との関連に関する論文についても話しをいただいた。

3回目は今月の2月10日に、フォローアップ研修会として、石原先生を講師としてグループワークを実施する予定としている。

今後の課題として、我々歯科医師が認知症の患者と出会うのは、訪問歯科診療になって初めてということが多いが、その場面においては、認知症だけでなく全身疾

患もあることが多く、治療が困難なことが多くなっている。

認知症の確定診断が出た後、歯科診療を中断することが多くなっていると感じているので、認知症の確定診断が出た人に対して、早期に口腔内の健康について関わっていきたいと考えている。

(山崎議長)

続いて高橋将喜委員から報告を頂きたい。

(高橋将喜委員)

薬剤師会では、年2回、健康フェアという一般市民向けのイベントを開催している。

昨年度は新型コロナの流行と重なったので2回とも取り止めになったが、今年度は11月28日にシルバーセンターで開催している。

委員の皆様には、春の健康フェアのパンフレットを配布しているが、概ね内容は同様となっており、薬と健康相談会、測定会、手洗いの方法の実演や、特別講演を開催した。

薬と健康相談会の中で、認知症の相談なども受け、簡単な方法で認知症の症状があるのかないのか分かるテストなども実施し、結果によっては病院に行くように進めている。

ただ、残念ながら2月に開催を予定していた春の健康フェアは、新型コロナ感染症の拡大防止の為、中止となった。

次回の秋以降、引き続き開催したいと考えている。

(山崎議長)

その他に各団体の方から報告等はないか。

この会議は、いつも当事者の視点を大切にして実施しているので、丹野委員から発言を頂きたい。

(丹野委員)

今まで話しを聞いていて、認知症と診断された後に口腔ケアができないという事があるという話がありましたが、診断直後の人は普通の人と何も変わらない。

しかし、実際に認知症という病名がつくことで、そういうことが起こり得る。

私もこの間、病気になったときに手術を受けられないかもしれないと言われた。

それは認知症という病名がついているので、全身麻酔をした際に、暴れられると困るという理由からであった。

認知症だから暴れるとかではなく、しっかりと本人に説明をすれば問題ない人が多いと思う。

また、家族にだけ説明して、本人に説明をしない人が多いと感じている。

ぜひ研修等で、家族だけではなく、本人に話しや説明をするということをしっかりと伝えて欲しいと思っている。

私と妻で病院や行政などに行った際に、私に名刺を渡す人は少ない。

妻にだけ名刺を渡して、説明用の冊子なども家族に渡して、家族にだけ説明する人が多く、本人が外された状態となることが多い。だから本人は、拒否するのだろうと思う。

ぜひ本人に話しをして欲しいし、本人を無視した行動をしないで欲しい。これは認知症の初期であろうと進行していようと同じであると思う。

(山崎議長)

私の実体験だが、5年ぐらい前から丹野委員の話を聞くようになり、認知症の本人に予約表を手渡すようにしている。

先日、来院した視覚障害の方に対して、ほとんど見えていないので予約表をご家族に渡したところ、本人から私に渡してくださいと言われた。

重要なのは、障害のあるなしにかかわらず、基本的な人間関係なのだろうと感じた出来事であった。

5 閉会

(山崎議長)

本日予定されていた議事は以上となる。